

報 告 會 會 鹽 瀟

大阪織維工業・振興・早稲田振興
第8号



ノルマ



じて現実に起こり、楽しい経験になりました。

今年度は**39期**の皆さんが対象です。
とき：2017年3月25日（土）
　　13時 開始 16時 終了
ところ：母校 食堂にてを予定しています。
当日は、当時学年を受け持ったれた先生方にもご参加頂いたり、楽しく、当時に触れて頂ければと楽しい企画を考えておりますので、是非ご参加ください。

2016年度学年幹事会を開催

平成21年5月1日～平成28年4月30日	取入の部
受取会費	2,224,00
受取寄付金	211,11
受取報酬金	5,60
の他の賃料	247,00
の他の賃料	2,687,71

2016年7月9日（土）、岐阜ターミナルビル11階・ほらの間に於いて秀麗会学生幹事会を開催致しました。

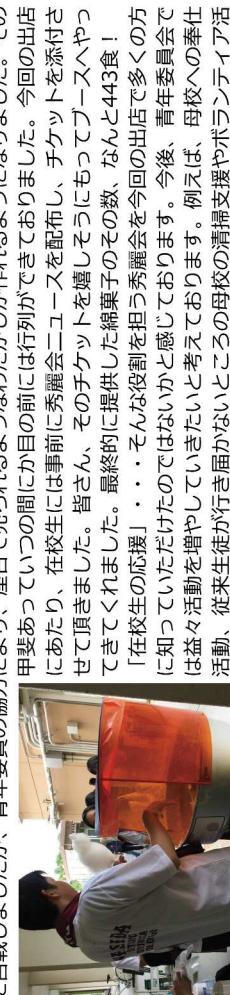
学年幹事会は、秀麗会總会長のご挨拶で始まり、各担当役員より当年度の秀麗会の「活動報告」、「会計決算報告」（※1）及び監査報告、「追加役員・追加学年幹事の人事」、「来年度予算（案）」、活動計画（案）、「来年度予算（案）」が行われ、厳正に審議されました。

支出の部	支出の部合計
支払寄付金	303,31
会員費	34,94
会議費	256,14
賃貸料	462,78
通信費	900,99
会員登録料	258,00
事務局運営諸費	39,11
運営諸費	296,09
会員費	10,67
支払の部合計	2,562,05

皆様の日頃のご支援に役員一同感謝いたします。引き続きよろしくお願ひ致します。



秀麗会青年委員会(U40)で初仕事！





同窓会運営・母校への支援に 「寄付金」のご協力をお願い致します。

現在、秀麗会では、OB、OG、学園、学校と相互の交流の場として、連携と親睦を図り、益々の母校発展に寄与すべく運営を行つております。主な活動は、本「秀麗会会報」の発行、学年幹事会の開催、ホームページの運営、母校文化祭への出展による啓蒙活動などで、他にはクラブ活動で優秀な成績を収めた学生及びチームへの激励金の支出し、学園行事などへの支援などがあります。母校は早稲田大学の系属校となつた2009年以降、学業(まちろんのこと、クラブ活動など)での自覚正しい活躍をし始めています。また、4年後の

2021年には学園創立60周年を迎え、本会としても現役生への金銭的な支援や、学園・PTAとともに記念事業への参画をしたいと考えております。また、秀麗会活動等のさらなる活性化、母校、学園との絆の強化を図り、一層充実した活動を展開する必要があります。別段にて、秀麗会の会計報告をさせて頂いておりますが、秀麗会の会計は現役生が卒業時に払う終身会費（1人8,000円）が収入の大半を占めています。しかし、近年は生徒減少の影響で会費収入も減少傾向にあり、単年度の収支で赤字にならないように何とかやりくりしているという状況です。終身会費の値上げについて、学校側と協議継続中でございます。そんな中、財政がひっ迫している現状では、突発的な出費に対応するだけの余力はありません。今年度も芦田さんがノラリンピックでメダルを獲得されたりとOBの活躍も始めましたが、今回改めて寄付のお願いをさせて頂きたく存じます。皆さまからのお力添えをお願いしてきましたが、今回改めて寄付は、母校施設などの造作費や備品購入へ支援、クラブ活動への奨励金・用具購入費支援、創立60周年記念行事への構立などに充てる予定です。趣旨にご理解、ご賛同頂き、「お一人おひとり、ご協力頂ける範囲」でのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。これまで、銀行口座と郵便振込に対応してまいりましたが、この度専用口座からの振込に一本化対応させて頂きます。皆様のご理解とご尽力を賜わり、秀麗会ならびに母校の発展にご協力頂きますよう、心よりお願い申し上げます。

秀麗会 会長 綱島 道悦

ご協力頂きましては、郵便振込のみの場合は、通信欄に使用目的を記載頂く事が可能になります。出身クラブへの寄付なども承り、直接お渡ししまりります。現在、野球部は照明設備の不足があり、日が当る時も暗いです。これまで、銀行口座と郵便振込にてご協力頂きましたが、この度専用口座からの振込に一本化対応させて頂きます。皆様の現状が見えており、今までの手帳に記載してあります。今後も母校の近況はホームページなどで発信致します。

＜郵便振込・・・同封の用紙でお願い申し上げます＞ 振込料は秀麗会で負担致します。

口座記号番号：00940-0-208474 加入者名：秀麗会

* 通信欄に使用用途をご希望がある場合は記載ください。不要の場合は匿名でも可

* 寄付金のお振込により得た個人情報につきましては、個人情報保護法に基づき厳正に管理いたします。

ご寄付頂きました寄付金につきましては、

中村陽一(現職15期) 関富武士(現職11期) 北條詮人(現職4期) 坂上裕一(現職5期)

田口誠(現職9期) 田中洋介(現職3期) 丸原伸(現職6期) 坂下雅也(現職7期)

橋本誠英(現職5期) 中山直樹(現職5期) 木村亮(現職9期) 石川和也(現職3期)

山下正(現職8期) 小林健(現職5期) 中西一(現職2期) 森田重(現職9期) 草野知弘(現職2期)

松本昌昭(現職8期) 田中大輔(現職2期) 高田龍(現職2期) 佐藤公治(現職3期)

山崎昌大(現職9期) 岩川昌平(現職3期) 岩崎通(現職6期) 岩崎和典(現職6期)

大庭正(現職16期) 野口真(現職8期) 野口真(現職16期) 野口真(現職8期)

他匿名へ敬意略

10月に実施した関東研修では野球の早慶戦を観て、その後、本校の卒業生が早稲田大の中を案内するという企画も実施しました。8クラスほどを案内してくれるので、卒業生が来てくれた生徒も質問しやすい。「どうやつたら早稲田大に入れますか」とか「どうもない質問もありますけど（笑）ただ、そういう連携をもうちょっと発展させてあげられたらいいのかもしれません。

綱島 生徒たちにとって、対面で話すことは刺激的でしょうね。

八木 近い世代の先輩の話を聞くことは、早稲田に限らず受験勉強へのアドバイスにつながると思います。女子生徒の確保も緊密な課題です。現在、本校では女子生徒が3割

を切るくらいバランスが悪い状況です。私立高校が軒並み共学化する時代に、早稲田撰陵は共学化によつて何を目指したのか。大隈重信公が言うように参政権を求めると言つような女子力でもいい。ちなみに高校の生徒会長は女子生徒ですし、中学校も女子が生徒会長です。彼女たちにはまとめる力もあるし、意見も言えるし、限度もわきまえている。本校は、女子教育に何を掲げるかといふことを問いつぶす必要があると思います。

もちろん女子生徒を確保しようと思つて、女子がマッチングできる教育内容や女子が入りやすい部活動の創設などを考える必要があります。トイレ、更衣室といった環境整備も必要です。余談になりますが、この学校には花もない。赴任した当初、自分で植えようかなとも思つたぐらいですから（笑）。

綱島 大学受験に向けたカリキュラムや具体的な体制づくりについてはどうお考えですか。

八木 体制はすでにできています。あとはそれらをやり切れるか、精度をどこまで上げられるかだけの話です。ただ、任意の講習や校内予備校、部活動のために19時から開講す

る補習などメニューがたくさんあります。複雑になつてある部分を整理する必要はあると思つています。

今のシステムが悪いとは思いませんが、メニューを自由に選べる今のシステムから上位層・中位層など学力に応じた補習・講習も考えていただきたいです。

綱島 平成28年度入試では産近甲龍に156人が合格しました。前年度から倍増です。それだけ熱心に学習している成果でしょうか。



八木 下位層への補習などは結果が出ているかもしませんが、この数字に決して満足はしていません。数字で言えば関関同立（平成28年度64人が合格）と並んでいます。目標を達成すれば学校自身がもたないと考えています。

近隣だけでも多くの私学があります。こうした厳しい環境にある中、さらに少子化が進むと特色的ない学校は淘汰され、生き残つていけないでしょう。

現在は「早稲田」の看板頼みになっていますが、早稲田大の推薦枠を今の約40人から増やし、上位は早稲田大、下位でも関関同立ぐらいのレベルの学校にしたいと考えています。本来は生徒が学びたい大学に合格してもらうのがいいと思うのですが。

綱島 現状は約40人の推薦枠を埋まつていない。学力の問題もあるが、「早稲田大に行きたい」という生徒がそもそもいないのでは。

八木 平成28年度で言えば、早稲田大を志望した子は30人ほどでした。その中でも学力が条件を満たせなければ系属校の推薦といえども入学できませんでした。結局は、高校入試の段階で早稲田大を目指す子、目指す



で動かす「陸上」と思い転向。すると、しばらくするところの進行が止まつたんです。「病は気から」ではありませんが、15歳で陸上と出会つたのは運命的なものだったなと思つています。

網島 すいじ話ですね。

芦田 最初は基礎体力もつけなければならなかつたので、400㍍800㍍の選手でした。病院のベッドでの生活を思うと、全力で動けることが樂しくて、ずっと走っていました。好タイムが出来るしつれしいし、周りにも喜んでからざるようになつてきました。陸上と出会つて、本当に人生が変わりました。

ただ、パラ競技との出会いには複雑な心境もありました。幼いころから病氣があることが「当たり前」でしたし、健常者の陸上部に所属してインターネットハイを目指していましたので、自分は障がい者に分類されないと思っていたんです。でも、高校3年の夏、初めて出場したパラの大会でいきなり優勝。しかも、世界で勝負できるほどの日本新記録。でも、僕はパラに魅力を感じませんでした。健常者競技から転向すれば日本で一番速いけど、自分が目指しているところではない——。今思つて天狗になつていただけなんですね。



ど、そこからは気持ちは入らず、全然練習しなくなりました。自分自身が障がい者だと割り切れなかつたんですね。練習しても記録は落ちていく一方。ロンドンの選考からも漏れ、2014年まで大スランプは続きました。

綱島 そんな状況でリオを目指そうと思つたのは。

草田 陸上をやっている以上、リオはすっと意識していましたが、本気で意識したのは2015年、大学4年のときでした。極度のスランプに陥り、卒業後も実業団で競技を続けるか悩んでいた時期。周りの友たちも就活を始め「自分探し」になど死にななっている中、自分にどうしては腕が使えないということが「超強烈」な個性に思えたんです。それならその個性を生かせないといけないんだろう。そこで初めて自分は障がいをもつた人間なんだと落とし込むことができ、バラで勝負したいと心が

ら思えました。同時に 400 口で
勝負できないならと思いつつ切って種目
を教えてやつてしまふ。ある意味で「は
くわ」でしだけでトヨタ自動車に
入社し競技を続けることを決めま
した。

大事なんでしょうね。「トヨタに行く」「種目を変える」「リオで勝つ」と覚悟を決めたら集中することができ、戦績も伸びていきました。

綱島 リオではリレーと走り幅跳
びに出現。リレーの第一走者として
チームに熱いをつけました。

声田 僕の中では第一走者は一番楽なボジションなんです。音が鳴つたら切り込んでいくだけなので。1位アメリカの失格による繰り上げでの3位だったんで、最初はよくわかりませんでしたが、表彰式で首にメダルをかけてもらつたときに「すごい」とやしたものかもって実感が湧いてきました。レース前には山縣亮太選手(トリオリンピック陸上男子4×100mリレーで銀メダルを獲得)からもJIN-EIで激励のメッセージをいただきていたので、実際にメダルが獲れて本当にうれしかったです。

一方で、走り幅跳びの予選落ちという結果はシンプルに悔しかった。



「ファールしたら終わり」も思って
いた1本目がファールになつてしまつて……初出場といつてもあ
つて、パニックになつてしまつた

「悔しい」というのは予選落ちという結果だけでなく、「自分たために」跳べなかつたことに対してでもあります。慣習を積んできたのは自分自身なのに、最後の最後で自分を大切にできなかつた。大会中は「日本代表の芦田創」として「メダルが欲しい」「勝ちたい」「期待に応えたい」という心理になっていたんだだと思います。試合に臨むときはそういう感情は全部心の中に秘めなければ勝てません。最後は自分のために跳ぶ、自分でこの試合を楽しむ——という境地にならないと世界の舞台で個人メダルを獲ることは無理なんだなど、今なら冷静に振り返ることができます。



早稻田60周年事業準備室を創設

2016年6月8日、学園創立記念日を期に来る学園60周年に向けた
記念事業準備室が創設されました。50周年の際は、中学校・高校等学校の早稻田系属化2年目で「産みの苦しみ」の真只中にあ
り、縮小した形で執り行されました。当時の理事会では60周年記念事業を早稲田大阪学園10年の節目として、改めて
この準備室では学園史編纂に
取り組みました。この責任重大的な写真や情報がござ
りますので、ご了承して下さい。準備室での報告も含め、本HPにて掲載してまいります。
<http://sureikai.com>

祝 岩田創さんトヨタ自動車所属
リオデジヤネリメーリー・ロバーリンピック2016優勝



2016年9月、ブラジル・リオデジヤネイロで開催されたリオデジヤネイロパラリンピック（以下、リオ）において、秀麗会会員の芦田創さん（2012年卒・トヨタ自動車所属）が陸上4×100mリレーと走り幅跳びに登場。4×100mリレーで銅メダルを獲得する快挙を達成しました。今回は芦田さんと網畠通悦・秀麗会会長の対談を実施し、陸上競技への思いや、母校での思い出などをお聞きしました。

陸上競技との出会い
島 綱島 リオでの銅メダル獲得の経験が、陸上競技との出合いです。
青田 15歳で陸上では卓球部に所属。13歳でテスモイド症と診断され、運動を諦めようとしたが、母親の言葉で再び走り始めたのが、陸上競技との出合いです。

芦田 15歳で陸上競技と出会うまでは卓球部に所属していました。5歳でテスモイドという腫瘍(がん)ができて、そこから転移・再発の繰り返し。闘病生活を10年間続ける間に制約もたくさんありましたが、「ため」と言われたら逆にやりたくなつて(笑)。テレビで見ていて運動が好きだったので、中学入学をきっかけに何かやつてみようと思つて卓球部に入りました。ただ、「体を全力

- A collage of six photographs documenting a formal award ceremony. The top-left photo shows a large group of men in dark suits standing in two rows. The top-right photo shows a man in a dark suit speaking at a podium. The middle-left photo shows a woman in a white dress holding a framed certificate. The middle-right photo shows a group of people seated at a long table. The bottom-left photo shows a man in a dark suit smiling. The bottom-right photo shows a group of people posing for a photo in front of a podium.

戸田創きん オハラリミッテッド